

●行政視察（東京都） 浅沼 碧海  
7月1日（火）～7月3日（木）

○東京都北医療センター

東京北医療センターは、東京都北区赤羽1丁目にある東日本旅客鉄道（JR 東日本）赤羽駅、（最寄り）北赤羽駅に位置している。羽田空港から電車で約1時間程度。駅から病院へは赤羽駅からは徒歩15分。北赤羽駅からは徒歩7分となる。東京北医療センターは立地的に高台に位置しており、妊娠を想定して徒歩で行くのは困難と想定し、国際興業バス（公共交通バス）にて医療センターへ向かう。乗車時間は5分ほどであったが、到着地から医療センターへ坂道を登って行かなければならず、視察メンバー内では、病院の入り口が到着地であるコミュニティバスやタクシーの利用が妥当ではないかと意見を交換した。（帰りはコミュニティバスを利用）



公共バスの利用



降車し、医療センターへ向かう

視察地到着後、東京医療センター事務部次長、総務課職員両名にご対応いただき、島しょ地域より出産目的で来院する方に対しての宿舍利用施設（寮）・産婦人科施設の見学を行わせていただいた。

※寮の概要については医療センターより頂いた別紙資料を参考にさせていただきたい。

寮に関しては現在6室、島しょ地域からの出産を希望している方に対して用意をしてくださっている。東京北医療センターは公益社団法人地域医療振興協会が開設・運営を行っており、現在神津島に1名医師を派遣していることもあり、東京諸島においては神津島・三宅島の利用者が多いとのこと。

寮での生活においては、設備等の都合もあり原則基本は一人住まい。帯同者等に関しては、赤羽駅にはビジネスホテルなどもあることから、そちらの利用を勧めている。病院内にコンビニがあり、北赤羽駅には大型スーパーもある。寮の予約については半年前から確認をしているとのこと。当院での出産を行う場合は、遅くとも34週間までには近くにおいていただいている。

八丈島や全国的な出産に関しての意見を伺うと、現在の出産についての全国的な流れにおいては、出産が行える病院は全国的に少なくなっており、集まるところに集まって行われ、限られた場所で出産を行う流れになっていくのではないかと。八丈島で行われていた、産婦人科医が1人での体勢は非常に厳しい。全国規模で見ても、どこにもいないのではないかと。無痛分娩等、母体への影響等を考えた場合、基本島外での出産が望ましい。東京北医療センターに関しては女医が多く在籍しており、生活サイクルを守り運営されていることから、出産に関しての体制を整えている。医療従事者に関して、結婚をしてからの地域派遣はなかなか難しい。と話を聞いた。

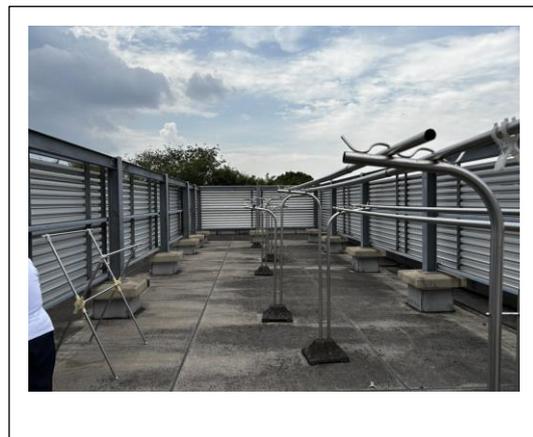
来年度から、八丈島での分娩が終了し、北医療センターでの受け入れに関して満員になってしまうのでは？という質問に対しては、受け入れは問題なく行える。寮が満室になる可能性はあるとのこと。

島しょ・僻地、他地域を支援する取り組みは運営団体（公益社団法人地域医療振興協会）の目的そのものであり、派遣支援も積極的に行っているとのこと。

現在は大島・神津島・御蔵島・小笠原諸島の受け入れは行ってきたので、八丈島も紹介状等があれば問題なく受け入れられる。将来的な八丈町立病院との関係は、今後ラインを固めていけたら。希望者に対しては見学の対応もされているとのこと、柔軟な対応をしてくださっており、私自身も見学をさせていただき、安心感を得た視察になった、妻が今後望むようであれば、少しでも不安を取り除きたく、ぜひ一緒に見学をさせていただきたいと思った。



寮の外観



寮の屋上（洗濯干しスペース）

帰路の際にはバスの時間まで猶予があったので、最寄り駅の北赤羽駅まで歩いてみた。構造上坂道を下っていき、北赤羽駅に向かうのだが、視察のメンバー内では現状出産を控えている状況での徒歩での移動は厳しいとなった。実際コミュニティバスを利用し、北赤羽駅→東京北医療センター→赤羽駅まで移動したが、料金も¥100なので、移動の際にはぜひ利用していただきたい。

※別紙1

居室内設備・備品について

・テレビ、ベッド、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコン、IHヒーター、ガス給湯器、ユニットバス

他、居室に設置されている家電・家具は以下の通りです

|          |            |             |             |
|----------|------------|-------------|-------------|
| 家具<br>家電 | 掃除機        | 調理器具<br>食器類 | フライパン       |
|          | 電気ケトル      |             | 手鍋          |
|          | 炊飯器        |             | フライ返し・お玉・包丁 |
|          | カーテン       |             | 茶碗・汁椀・丸皿    |
|          | マットレス      |             | フォーク・スプーン・箸 |
|          | 敷布団・敷布団カバー |             | コップ         |
|          | 掛布団・掛布団カバー |             |             |
|          | 枕・枕カバー     |             |             |
| テーブル     |            |             |             |

恐れ入りますがその他の物品については必要に応じてご自身でご用意お願い致します。

設置されていた家具・家電は持ち帰らないでください。

※調理器具はIHヒーターです。専用の器具以外は使用できません。

※衣類乾燥機・浴室乾燥機はございません。看護宿舎の屋上に物干し場がございますのでご利用ください。

※備品は部屋によって若干異なる場合があります。

※インターネット（Wi-Fi）の提供はございません。



※ゴミ庫は裏口出てすぐ左手にあります。こちらもお部屋の鍵で解錠できます。ゴミ出し方法はご確認のうえルールを守ってください。

※備品などを破損された場合は、速やかにお申し出ください。

担当がお伺いし、確認させていただきます。また、内容により費用のご負担を頂く場合があります。

## ※別紙 2

### 島しょ地域より東京北医療センターでご出産をされる方へ

この度は、ご妊娠おめでとうございます。

当院では、島しょ地域より分娩目的で当院に来られる患者様に対し、安心して妊娠・出産・産後の生活が行っていただけるよう、できる限りの支援を行っております。  
安全な出産環境の提供及び母児の健康管理の為、以下の内容にご同意頂いた方に限り分娩をお受けしております。

1. 妊娠 34 週までに入寮もしくは緊急時にただちに受診できる範囲内に滞在いただくこと
2. 母の 1 ヶ月健診および新生児の 1 ヶ月健診までは帰島せず、寮もしくは緊急時にただちに受診できる範囲内に滞在いただくこと
3. 医師の指示がある場合には上記期間以外でも寮もしくは緊急時にただちに受診できる範囲内に滞在いただくこと

上記内容に同意いただいたうえで、当院でのご出産を希望される方は、受診の手続きをお願いいたします。

#### 【受診の流れ】

- ①現在、妊婦健診を受けている島しょの医師より診療情報提供書（紹介状）を作成してもらってください。
- ②当院地域連携センター（直通 03-5963-3421）あてに電話をし、初診の予約を取ってください。  
なお、受診時の滞在先として当院職員寮を希望される方は総務課（代表 03-5963-3311）へ電話をし、申し込みをしてください。
- ③初診受診時に診療情報提供書（紹介状）を持参し、初診受付（正面玄関に入って右側）にお出してください。  
\* 初診受診の時期は、島しょの医師より指示を受けてください。遅くとも 34 週以降は当院での管理となります。

#### 【入寮の手続き】

当院では、妊婦健診時や分娩前後の滞在先が当院近隣に無い方に対し、職員の単身寮をお貸しております。単身寮であるため、利用定員は大人 1 名（原則、患者様のみ）となります。

妊婦健診や分娩時にご家族が短期間の付き添い宿泊を希望される場合には、あらかじめ総務課（代表 03-5963-3311）へお申し出ください。なお、長期間滞在される場合には、ご自身で滞在先の手配をして頂くことをお願いしております。

初診受診時に分娩予約を行います。それ以降、入寮希望日 1 週間前までに総務課へお電話にて入寮の申し込みを行ってください。

\* 詳細は別紙参照ください。

#### 【その他】

上のお子様がいいらっしゃる方は、あらかじめ上のお子様の預け先を確保いただく様お願いいたします。

2019 年 9 月 27 日  
東京北医療センター 産婦人科

## ○自治体・公共week

2日目は東京ビックサイトで行われていたイベント「自治体・公共 Week2025」に参加した。概要としては自治体・公共向けの7つの専門展で構成された展示会であり、「住みやすい街づくり」「活性化」「業務効率化」につながる製品やサービスの比較検討や最新のトレンドの情報収集が行える場所である。展示の他にも、さまざまな講演も実施されており、講演を聴衆しながら空いた時間に展示スペースを見学し、情報収集を行なった。視察メンバー間では自由時間とし、各自興味ある講演、展示会に参加した。



私は10時～デジタル大臣 平将明氏による「日本のDX推進政策」 / 12時～内閣府大臣官房審議官（防災担当）河合宏一氏による「地域防災 政府方針」 / 15時～地域創生2.0スペシャルトーク～楽しい地方の作り方～を聴講した。

平大臣の講演は、デジタル庁が開設された経緯、現在抱えている問題、行政のAI活用等の話がされた。実際展示の中でもDXやAIを使用した行政の自治体・行政の負担軽減化をアピールしている企業も多く、調べ物・過去の質疑等、補助金・助成金の事例など、私自身も使用できそうなものは積極的に活用していきたい。

河合宏一氏による「地域防災 政府方針」の講演は、防災庁設立に向けての経緯、地域防災力強化に向けて47都道府県の担当職員を配置し、地域の防災力を強化していくことなどの話を伺った。今回の視察の目的の1つである「地域防災」に関しては展示会でも多くの企業がPRを行っていた。災害が起きた際の仮設トイレ、電源確保、防災備蓄品、防災対策、後に起きると言われている南海トラフ地震への対策に向けてもあるのであろうが、かなり力が入っているような印象を受けた。私が特に印象を受けたのはコンテナハウスを活用した仮設トイレの話だ。近年コンテナハウス活用のアイデアを募集していたこともあり、離島という立地において活用の可能性を感じた。

地域創生2.0スペシャルトーク～楽しい地方の作り方～では内閣府の展示室でも展開していた「特区」の可能性に興味を惹かれた。現状八丈島は東京都に立地しており、23区内と同じ条件での規制が多い。だが現状は大きく異なる。特区制度

を使うには新たなルールを作ることになり困難も多いが、今は提案に関しては個人でも行うことができる。柔軟な発想を持って今後の八丈島を考えていく1つの参考にしたい。



講演前の様子※講演中は写真禁止

展示室の中では、八丈島とも繋がりがあり、移住定住の視点で情報共有を行っている「ふるさと回帰・移住交流推進機構」や、今年6月より産婦人科・小児科のオンラインでの相談を開始した「Kids Public」等とご挨拶・意見交換を行なった。

展示スペースの中で、八丈島に利用の可能性のある場所を特定し、特に興味を惹きつけられた公共施設の包括施設管理・地域に特化した広報戦略・法人向けメンタルヘルス・妊娠に関するオンライン相談・相続人調査業務のブースで話を伺った。

1日という限られた時間の中で、たくさんの情報を得ることができた。



特に興味を惹かれた特区のブースのパネル

今年度で終了する予定の町立病院での分娩。島しょ地域の積極的な受けいれを行っている場所の視察は大いに参考になった。もちろん各々が望む場所での出産が一番理想ではあるが、「選択肢がない。どうして良いかわからない」と悩むことが一番不安である。島として勧めていける場所があるのは、安定を生む1つの要因になるのではないかと思う。百聞は一見にしかず。という言葉もある。施設や雰囲気等は私個人から見て、とても良く充実しているように感じた。ただし島外から見学のみで上京を行うのは難しい人たちも大勢いるはずだ。町から病院事務長代補佐や福祉健康保険係長、議員からも5人視察に行かせていただいた。出産先を考えている町民の皆様の1つの参考材料になれるよう、この視察を活かしていきたい。

自治体・公共 Week2025 への参加については、議員として視察に行けたのは、より有意義な視察になった。PRする企業に関しても私たちに本気で説明をしてくださった。また講演会や展示ブースなどの選択に関しては、ある程度議員各自に自由があり、各議員の個性を活かすやり方でもある。新たな情報を得ることで、自分の知見だけでなく、視野を広げ、八丈島の活用に繋げていける可能性がある。より良い事例を学び、今後の八丈島に活用できるよう、この視察を活かしていきたい。